

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 11 日現在

機関番号：33909  
研究種目：基盤研究（B）  
研究期間：2008～2012  
課題番号：20330169  
研究課題名（和文）戦後沖縄における教育実践史研究

研究課題名（英文） A study of educational history in postwar Okinawa

研究代表者  
齋木 喜美子（SAIKI KIMIKO）  
至学館大学・人文学部児童学科・教授  
研究者番号：30387633

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：沖縄 占領期 教育実践史 ガリ版教科書 伊波常雄 所蔵資料リスト 教員研修制度 教員養成史

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、沖縄の一教師だった伊波常雄(1931-2007)が40年以上にわたる教員生活の中で蓄積してきた教育資料を中心に、他の教育史料の調査・整理の成果、聞き取り等を援用することによって戦後沖縄の教育実態を解明しようとするものである。4年間の研究計画は以下の通りである。

## (1) 資料整理とリストの発行

伊波常雄教育資料を整理し保存するだけでなく、詳細細目を含めた資料リストを発行することで、利用者の便宜を図る。さらに一部マイクロ化によって、貴重な資料の保存を図る。

## (2) 戦後沖縄、とりわけ占領初期の教育実践の実態調査

伊波資料を中心にしながら他の教育史料を調査し、さらには同時代を生きた同僚の証言等の聞き取りなどを通して、これまでの先行研究では不十分であった「実践」にフォーカスした占領初期の教育の事態を明らかにする。

## (3) 教育実践と教師のライフサイクル研究

当時の教師たちの教員養成、教員研修等のライフサイクル研究と史料の分析結果を総合し、「子ども」の教育、文化、生活にまで目配りすることによって、戦後沖縄教育実践史論を構築することを目指す。

## 2. 研究の進捗状況

研究課題に沿って、以下のように研究は進捗している。

## (1) 資料整理とリストの発行

- ①資料リストを発行し、沖縄のみならず国内外の主な研究機関、図書館などに情報提供した。
- ②とりわけ貴重な資料はマイクロ化し、保存を図った。
- ③マイクロ化した資料については紙媒体に製本し、さらなる利用の便宜を図った。

## (2) 戦後沖縄、とりわけ占領初期の教育実践の実態調査

- ①豊濱氏や新里氏など、伊波常雄の元同僚の教員へ聞き取りを行い、資料の裏付けを図るとともに、当時の教育現場の抱えていた問題を明らかにした。
- ②伊波の残した日記、当時の学級日誌、児童の学習帳などを詳細に検討し、おもに1950年代における沖縄の教育実践の実態と課題について明らかにした。
- ③おもに1950年代の沖縄の教員養成・研修について中堅層教員、青年教員とのかかわりを中心にまとめた。
- ④復帰前の平和教育実践については、新・旧教員間に意識の格差があることを教員としての自己形成史の過程から明らかにし、まとめた。

(3) 教育実践と教師のライフサイクル研究

上記の課題については定期的に開催している研究会で報告を行っており、共通理解が深まってきている。またそれらを基礎データとしつつ、(3)は最終年度の課題と設定して取り組んでいる。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

段ボール箱約100箱分にも及ぶ伊波教育資料はすでに整理のうえ細目リストを発行し、各機関への周知、情報提供を行い、資料そのものは専用の保存箱に収納して利用に供している。またとりわけ劣化の激しい資料についてはマイクロ化し、長期利用と保存に向けての対策を講じた。

さらに内容研究に関しても研究成果の発表、論文へのまとめ等順調に進んでおり、現在はシンポジウムと資料展示開催に向けての準備が着実に進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は研究の総まとめの年となるので、以下の項目についての達成を目指している。

(1) 資料リストについて

すでに発行した資料リストに漏れがないかどうかの最終チェックを行い、リストの精度を高めるとともに、その情報はキーワード検索のできるようにCD-ROM化し、各研究機関に配布する。

(2) 資料展示会、シンポジウム等の開催

8月末に資料の保存先でもあるうるま市歴史民俗資料館、うるま市教育委員会との共催で伊波教育資料の展示会を約1カ月間にわたって行う。合わせて展示期間中にギャラリートーク、シンポジウムを開催し、広く市民に資料の周知と研究成果の発表、情報交換を実施する予定であり、現在研究チーム内で協議し計画を進めている。

(3) 研究成果のまとめ

各自がこの研究期間内に進めてきた研究内容を原稿にまとめつつある。そのための検討会も随時進めており、第一回原稿締め切りを8月末に設定し鋭意執筆中である。その後編集委員会の査読と修正を経てまとめ上げ、来年度の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)に応募する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

(1) 櫻澤誠・真栄平房昭「[インタビュー] 戦後沖縄における一教員の経験と実践 青年会活動・教育運動・石川宮森小ジェット機墜落事件—豊濱光輝氏に聞く—」『ノートルクリティーク』第4号、査読無、2011年、2～73頁。

(2) 森田満夫「戦後沖縄における平和教育実践考—新・旧世代教員の自己形成を手がかりに—」『教職研究』第21号、査読無、2011年、71～86頁。

[図書] (計1件)

(1) 齋木喜美子『伊波常雄教育関係資料目録』中京女子大学発行、2010年、539頁。

[その他] (計1件)

報道関係情報

(1) 齋木喜美子「占領期沖縄 児童文化の光と影」1～4、琉球新報朝刊、(2010年10月7.8.9.14日)